



内藤 とし子 議員

子どもの命と健康を守るために

問 猛暑で、災害並みの今年の暑さは尋常ではなかった。一刻も早くエアコンを設置すべき。また、父母から陳情が1カ月で5,800名を超す署名と共に提出され、新日本婦人の会高浜班から

も要望書が出されている。そこで、6月・7月の教室の温度は何度であったのか。

答 6月20日から7月20日まで午後1時に測り、7月第3週の高い教室は34.8度、低い教室が33.6度、最高温度は7月17日、高取小学校の37.2度で、30年に1度の酷暑といわれるのが、良くわかる結果でした。

エアコン設置に対する具体的な措置については、本年8月に学校施設環境改善交付金交付の前提になる平成31年度建築計画に、小・中学校エアコン設置事業を追加申請した。採択の状況を見ながら、早期に進めていきたい。

登下校時の子どもたちの持ち物を減らす工夫をせよ

問 最近、登下校時の子どもたちの持ち物が多く、膝、腰、肩こり、頭痛等の発育障害など問題があるといわれている。教科書に加え、補助用具や上靴、体操服、水筒など、小さな体にカバンを背負うだけでも大変なのに、大きくなったり厚くなったりしている教科書など、持ち物を少なくするよう求める。

答 持ち物を減らす工夫をしており、多くなることもあるが、学校保管できるものの検討を継続し、児童生徒の安全に配慮していきたい。

安全なまちづくりについて

問 県内には54自治体があり、その内22市町では危険なブロック塀など、塀の改修・撤去到補助等がある。当市の撤去費用、改修費用について支援制度の創設の見解は。

答 この地域でも大規模地震の発生が危惧されており、ブロック塀撤去費用に対して上限10万円で補助金を交付します。



黒川 美克 議員

勤労青少年ホーム跡地活用事業について

問 今後、どのようなスケジュールで工事が行われていくのか。

答 事業者が建物の基礎工事を進めており、余分なガラを掘削しないよう、ガラなどを搬出している。流用

土は、事業者がガラと良質土に分別し、経費を削減するよう調整している。

勤労青少年ホーム解体工事及び南テニスコート撤去工事について

問 掘削土量の確認についてお答えください。

答 検査で掘削土量の体積を確認したのではなく、設計書で鋤取りの体積650m³を確認しており、担当課の職員が測って掘削土量の650m³に変化率の1.1を置き換え、720m³を現地で確認している。計算上も問題はなく、私どもも責任を持った仕事をしている。

問 設計書の積算基準である「公共建築数量積

算基準29年度版(国交省)」では、土砂量は地山数量とし、掘削による増加、締固めによる減少は考慮しない」とある。650m³であれば納めできるが、地山を掘って盛土する場合は、土木の積算基準が変化率0.85であることから、1割増えるという説明は基準に合っていない。臨時会での企画部長の答弁は訂正すべきだと思うが。

答 現実、720m³の土量を確認しているので、おかしいとは思っていない。

問 議会初日にアスファルト撤去面積が6,607m²との説明があったが、建屋が482m²で、テニスコートの面積は省かれるので、敷地面積の合計は約7,800m²となる。敷地面積約8,700m²と比較すると900m²ほどつじつまが合わない。敷地面積8,700m²との整合性について説明を。

答 900m²についてはすぐに出ません。あとで文書で提出する。

問 資料提出のあったマニフェスト総括表でアスファルトの処分は、631.5tとなっている。処分量は間違いはないか。どう確認したか。

答 法的に定められたマニフェストに基づいて、監督員が確認している。